

営農ウィークリーNEWS

竹藪で、びっくり！！ / メイガ類の越冬か？

2024年、2025年と竹の葉に大きな被害を与えたノメイガ類。「シナチクノメイガ」や「キモンホソバノメイガ」が主な害虫であることがわかってきました。しかし、その生態は、まだ、詳しくわかっていません。7月あたりに大発生した後はどこにいくのか、冬はどこにいるのか。

12月に竹藪を調査したら、ある竹藪ではプラスチック製の波板の下の竹におびただしい数の繭がくっついて
いるのが見つかりました。

これらのノメイガ類は幼虫の時に小さな隙間に入って繭になってそのまま越冬しているのではないかと考えられます。それならば、これらの繭を探し出し、まとめて処分すれば、少しでも被害を軽減できるのではないのでしょうか。



繭の中には生きている幼虫もいれば、病気で死んだ幼虫も見られます

繭を拡大したもの

—TAC information—

本年もありがとうございました



経済部の営業は、年末は12月26日（金）まで、新年は1月5日（月）からとなります。

ご不便をおかけしますが、ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

竹のノメイガ類の隠れ場所の例



プラスチック製の波板の下



シートの隙間



トタンの下



7月19日に板紙の隙間で発見された繭。すべての繭に幼虫がいました。

12月では生きた幼虫は少なくなっていますが、ふ化した場合1匹が何十個もの卵を生むので、今、退治しておけば、被害軽減が図れると思われます。